

事業名	路線バス維持対策事業
-----	------------

総事業費	12,366 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図	島内バス路線の確保・維持を図りながら、1市2町及び民間事業者等が連携し、種子島全体の新たな公共交通体系や計画を構築する。	
事業の実績 と成果	取組内容	地域をまたいで運行する民間バス路線の確保・維持のため、1市2町による共同補助負担を行った。 【空港バス】種子島空港バス対策協議会へ1市2町共同で上限1,000万円の負担金（本市割当3,727千円）を支払った。 【幹線バス】運行事業者（株式会社GLOBALTHINK）へ1市2町共同で上限2,500万円の補助金（本市割当8,639千円）を支払った。
	成果	【空港バス】令和5年度の運行経費に対して、令和6年度の予算で支出 ※令和6年度から空港バスの代替については、種子島地域公共交通活性化協議会運営事業で実施 【幹線バス】西之表港着の高速船へ接続する形で、種子島高校～南種子町役場前の路線が6便/日確保された。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	幹線バスについては、昨今の燃料費の高騰や労働環境改善に向けた交通事業者の取組等により運行にかかる経費が年々増加しており、補助上限額の見直しについては、交通事業者からも声が挙がってきている状況であることから、持続可能な交通体系の構築に向けて、引き続き1市2町での検討が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	種子島地域公共交通活性化協議会は解散の運びとなったが、広域路線バスの安定運行に向け、引き続き1市2町での連携が求められる。種子島全体の観光推進や港町再生（西之表港の耐震岸壁強化）も意識した対策を講じていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・補助上限額等について、1市2町で確認の上、実施する。 ・令和3年度に設立した種子島地域公共交通活性化協議会については、令和6年度3月での南種子町の脱退を受け協議会は解散となったが、種子島地域の交通施策に関わる課題の解決に向けて、引き続き1市2町や交通事業者と連携しながら取組を進めていく。
------------	--

事業名	西之表市地域公共交通事業
-----	--------------

総事業費	67,582	千円
------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図	交通弱者等の市内の移動が可能となる。	
事業の実績 と成果	取組内容	市街地22箇所のバス停を1日6便×2系統（北回り、南回り）で循環する「わかさ姫」と、市街地（巡回バスのバス停22箇所+病院3箇所+種子島高校の計26箇所）と大字の利用者宅を予約乗合型で結ぶ「どんがタクシー」の運行主体である、市地域公共交通活性化協議会への運営補助を行った。協議会の運営事務としては、市補助金の交付申請等の手続き、運行実績管理、事業の広報、台風時の対応、住民及び事業者対応等を実施した。
	成果	市街地巡回バス「わかさ姫」及びデマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」の運行を実施することができた。 【市街地巡回バス】年間利用者16,553人（前年度比133.7%）、令和6年度市民アンケートにおける「非常に満足、やや満足」の割合計31% 【デマンドタクシー】年間利用者17,857人（前年度比116.6%）、令和6年度市民アンケートにおける「非常に満足、やや満足」の割合計27%

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	令和5年10月からの運賃無償化の開始以降、わかさ姫、どんがタクシーともに利用者は増加傾向であり、交通事業者や各関係機関で構成される市地域公共交通活性化協議会にて、利用実態や利用者の声等を基に、適宜、利便性向上に向けた見直しや検討を実施しているが、車両の更新が喫緊の課題であることから、車両更新に伴う運行ルートの見直し等も含めて協議を実施しながら検討を進めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	・ 運賃無償化により利用者は増加しているが、車両の更新は喫緊の課題となっている。 ・ 安定運行の維持とともに、さらなる利便性向上に向けた対策を講じていく。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	・ 利用実態や利用者の声等を基に、適宜、利便性向上に向けた見直しを実施する。（予約システムの導入の検討や車両の更新、ルートの見直しなど） ・ 現在運行している、西之表市街地巡回バス「わかさ姫」及びデマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」に加えて、令和7年度より「種子島空港予約型乗合タクシー」の運行を行う。 ・ EV車両の導入による実証運行を行う。
------------	--

事業名	種子島地域公共交通活性化協議会運営事業
-----	---------------------

総事業費	5,911 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図	島内移動の利便性が向上する。	
事業の実績 と成果	取組内容	種子島地域公共交通活性化協議会で令和5年度に策定した「種子島地域公共交通計画」に基づく取組を推進させるため、令和6年度に実施計画を策定した。 また、空港バスの廃止（R6.3/30）に伴う代替交通として運行をスタートさせた種子島空港予約型乗合タクシーについては、事務局の中種子町を中心に1市2町や関係機関と連携しながら取組を行った。
	成果	種子島地域公共交通活性化協議会にて、実施計画を策定した。また、1市2町や関係機関と連携し、種子島空港予約型乗合タクシーを運行することができ、空港バス廃止に伴う代替交通を確保することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	令和3年度に設立した種子島地域公共交通活性化協議会については、令和6年度3月での南種子町の脱退を受け協議会は解散となったが、種子島地域の交通施策に関わる課題の解決に向けて、引き続き1市2町や交通事業者と連携しながら取組を進めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	市民や観光客の公共交通手段を確保する上でも、1市2町の連携は欠かせない。利便性向上に向け、引き続き、協議・検討を進めていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	令和6年度3月末での協議会の解散に伴い、本事業は廃止⇒種子島空港予約型乗合タクシーについては、西之表市地域公共交通事業で実施
------------	--